

# ななーる通信

秋号

ななーる訪問看護ステーション [email info@nana-r.jp](mailto:info@nana-r.jp) [URL http://nana-r.jp](http://nana-r.jp)

## あなたの働き方はアリ？ キリギリス？ミツバチ？

秋になりました。夜には虫の鳴き声が聞こえます。この鳴き声が聞こえなくなったら冬の到来ですね。さて、みなさんはイソップ童話の「アリとキリギリス」はご存じですよ。冬の日にはアリが夏の間貯めた穀物を干していると腹をすかしたキリギリスがやってきて食べ物を少し分けてほしいと頼みます。するとアリは「なぜ夏のあいだに食べ物を蓄えておかなかったの？」と聞きます。キリギリスは「歌うことに一生懸命だったので蓄える時間がなかったのだ」と。するとアリは「夏に遊んでばかりいたら冬になれば食べ物に困るのは当然さ」と言います。

これは「なぜ働くのか」を示唆する典型的な物語として知られています。小学生のころに聞いたときは「ちゃんと働かないと後で困ることになりますよ」なんて言葉とともに先生や親から聞かされた覚えがあるかもしれません。あえてわかりやすくタイプ分けすると

「アリタイプ」：勤勉にコツコツと働いて自分の生活や将来に対して準備をするのが生きる目的。安定志向で現在を多少犠牲にしてでも将来に備えようとする。日本の高度成長期を支えたモーレツサラリーマンである、私たちの親の世代に多いのではないのでしょうか。



「キリギリスタイプ」：こちらは遊ぶことが人生の目的。享乐的、刹那的で目の前の快樂を求める。私たちが子どものころはどちらかと言えば「不真面目」だとか「怠け者」みたいな言われ方をしていた感じもあります。芸術活動する人も昔はそんな目で見られていた感じはします。

さて、いまこの話をもう一度聞いてみるとうかがいでしょうか？ 私は「アリよ、そんな厳しいこと言わずにキリギリスに少しは分けてあげれば、昆虫界では尊敬されるのになあ」「キリギリスは歌うことが得意なのだから夏の間にはアリに美しい歌声を聞かせてもっと喜んでもらっていたら冬に食べ物を分けてもらえたかも」と思いました。

じつはこの童話に「ミツバチという働き方もあるよ」と言った人がいます。ジョアン・キウーラというリーダーシップなどの研究者です。「ミツバチタイプ」：ハチミツを提供したり花粉を媒介したりして自分も満足しながら他者への恩恵もつくり出している。自ら進んで外部の公共的な目的を果たす生き方です。この視点、おもしろ

